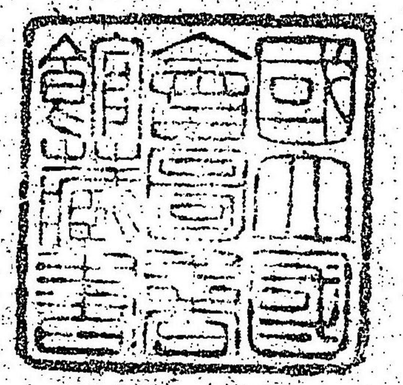
# 正信偈和訓圖繪 中

特71
610

特71
610



52. 6. 2
77W20281

# 正信偈和訓圖會巻之中

攝都 曉晴翁 編述

## 獲信見敬大慶喜

獲ハ得(エテ)ト訓テ信心ヲ獲テ見敬大慶喜(ヨロコベバ)トスルトテ見テ敬ヒトヽ目ヲ見テトヽハ非ス見ハ了別の義ともいひ推求思察の義ともいひて心ヲトヽくく明らめ見てとるり世間の諸ものを聞て見なあて見思ふて見るくいろ〳〵皆了別するといひものをて篤しこのきゝめ極る事るり今の見て敬ふく有も我身ハ悪きいとゞ〳〵者なりと思ひあきらめ斯る者すで助けめくる佛ハ弥陀如来の御あゝとく敬ひ重んぜるが則信を得て見敬するるり大慶喜ハ大よろこびるり

## 即横超截五惡趣

三像大光明を放ちて
長者が叡慮を示りのとり甚時
五種の疫神眼前人の目は見えて速は
他界へ逃去国中の病悪一とるり甚時
あらゆるもひ一三昔ところ一なりしが今の
善光寺の如来これるり
こそ

敬ひて悦ぶべしとは即撲拓截五悪趣に信心を得まば即ち撲は五
悪趣を截るりとはこそして撲は如来の願力といふ拓は生死の
大海を安く超て元上大涅槃の都に入るり截は截断して截
るるつとをいふ五悪趣とは地獄餓鬼畜生人間天上の此五趣の
迷ひを撲は拓截して如来の本願して撲は截るるして苑拓
て安養浄土に至るといふ也

## 一切善惡凡夫人 聞信如來弘誓願

## 佛言廣大勝解者 是人名分陀利華

此句は佛の御賛ことばの経文乃意を出して一切善悪の凡夫を
廣大勝解の者とも名づけ分陀利華とも名づけて賛せるるは

如来の弘誓の願を聞信するかの事なれば明らかに聞て信を取よ
と勧めの所なり凡夫の中にても善凡夫悪凡夫との事あれば
も十方衆生と有ときは差別なきかよ一切善悪の凡夫といへ
聞信とは聞いて信心を得ることなり則如来の弘誓
願として弘く誓の願を聞て疑なく信する者歓喜するは最大の勝解
の者と賛めの又五双智恵者と誉めの是を仏言最大
勝解者と音して称するなり仏言は仏の言なり勝解者とは
勝解心所といへる事ありて是にて遠なく明らかに決定したる
所を勝解と御経には解脱せられし勝きて解ると勧て是は
一文不知の尼入道なりといへども後世を知る者とて
いろいろ言へども又此意なり是人名分陀利華とは是人を分
陀利華と名くといへる事にて数くの所なり涅槃経は

八分陀利華と仏の異名なせり又仏徳をかめて分陀利華と説る
所もあり天台一乗の妙法を分陀利華とたとへるも真言秘密一
乗を分陀利華とたとへるも皆其法の勝るを褒へさせること
此所の是人を分陀利華と名づくとあまば本師本仏の法徳
と其まま此身具足して功徳は行者の身に満るなり加ふ観経
乃現又ふ念仏の行者をきして應ふ如べし此人は是人中の分陀
利華なりと説せられし其分陀利華といへば花びら百葉だら
里有て外の花びらは甚白く中なる粗漸ふ金色のごとく成て
香気のきよきを喩へる物なり人間界の花にはあらず非通力を
得し羅漢たちは見ることの事もありて仏の御在世に瓶婆王が欲
種と教せし時それを摂して迦葉尊者が通力をもて阿耨達池に
いたり其池の水を其花に浸し来て教されし人にそそぎ懸しば

身心安隠ようして天上に生まれしめ菩善毘三藏の偈頌と出して唐の一行阿闍梨の大日経の義疏をくはしく見へうし斯る不可思議の功徳ある華を此花と称じて妙善華妙好華上こ華希有華最勝華といへり有此五の異名華なれば人も名づくるとて善導大師散善義に観経の文乃人中此分陀利華と云へり即是人中の好人なり人中の希有人なり人中の最勝人なり人中此妙好人なり人中の上上人なり人中の希有人なり人中の最勝人なり是を御和讃に真宗念仏聞得て一念歓喜して希有最勝人と云へり

め正念を得しむ宗めしるし示しめす故に蓮師の大意に如来の如来を聞信ぞれば釈尊ハこの人を廣大勝解の人なりといひ又分陀利華なとと人或ハ上上人なりとも希有人なりとも賛めうしなり御置きなる也一説に芬陀利華ハ天竺の語にして

唐土にてハ白蓮花とも則彼阿耨達池なる廣大の白蓮華なり其色雪の如く銀のごとく其形ハ車蓋の如くにして微妙殊勝なるべし好華といひもべて花多くとも人ども蓮に勝きるハなく蓮の中に此分陀利華に勝きるべきなるとして経に

ハ妙上世尊と此花をもとと又法華の一乗経主を此花にたとへ

観音量壽経にハ若念仏者是人中分陀利華と説きたり

淺猶しき身を此花に譬られるハ偏に信心の徳とすべし

弥陀佛本願念佛　邪見憍慢惡衆生

信樂受持甚以難　難中之難无過斯

弥陀佛の本願念佛とハ自餘の諸佛ともに本願なり念佛もあき

ども夫ハ一代諸教の信とうい〜信ずらる〜事もあれども弘願の信樂うるかゝと有て弥陀本願の念佛ハ自力根性まてハ信ずらゝ御法まてハ無故なり別して弥陀佛の本願念佛と御名を仰らゝなり念佛といふハ南無阿弥陀佛の六字と心まも得て口まも稱ることなり邪見といふハ因果の道理と辯へまで過去ありて今生なり今生ありて未来あるといふ三世因果の佛法を信せぬもの〜事なり過去となりて思ひ合ハ驗劫より迄来常ハ没〜常ハ流轉して機の信心乃発るべきを繹もなく又未来とうとして思ひ合ハ彼願力ハ無ずして定て往生を得と後生を思ふ信心の起るべきをもなり是所道根性と是として佛法を耳まも入ぬ人の信ぜるを見てハ愚るやうに見下し〜謗る者どものことをいふなり此邪見と憍

慢の二ハ所謂悪衆生として悪き凡夫なるゆ信樂受持甚以難難
中之難なる過新ふ信樂を受持ふハ甚だ難くして難き中の
難きを過るハ無くして信樂ハ既に前にも言ふ
信して疑ひなく樂ふを以て信樂を受持ふハ
甚だ難しと言ふなり實に邪見憍慢の悪人ハ通途の佛法
さへ信じがたきに況や不思議の佛智ハ尚更信じ難きを以て此
二を出して難信と示しなり凡他力本願の念佛ハ愚痴無智
のうち傾きて信ずるなれば上のごとく利益あり小智ハ菩提の妨なり
邪見の憍慢の心を捨て唯あるがまゝなるこそ宜しけれ如何も煩
悩具足の凡夫なるまゝなれども凡夫なれども飾る所なき姿なれば
淨土真宗の正機なるべし自力の小出かまを心を
放ちて唯不可思議の佛智を仰き奉るべき事なり



肝要なり是まで悉く惣て大德の意によりて示しなる所なり

## 印度西天之論家　中夏日域之高僧

## 顯大聖興世正意　明如來本誓應機

是より上ハ大聖の真言と有て經論によりて示しなる又是より下ハ
大祖の解釋と有て七高僧の釋文によりて示しなる西天とハ唐
日本より西なる天竺なり天竺ハ閻浮提の中心ふ
て金剛寶座あり菩提樹もありて諸佛出世の地佛法の源
の國なり印度西天といふ事ハ印度ハ月輪の名なりて月の西
天といふ事なり月といふものハ圓なるものなり一切衆生乃
至明の闇をてらし破るハ佛法なり其佛法の出る國なる故に印

度西天といふ也これハ云應の一切經の音義の中ニ出たり天竺ハ
印度乾毒身毒月氏等の名あり　按ずるニ天竺ハ西域の中乃
南國也顔師古の云身毒の字多ハ略して天篤とハ篤の字文
を省きて竺ニ作る又略して竹の音とハ　和漢三才圖會西域記云南州正
中ニ有二大雪之葱山頂東有二震旦國一南有二天竺一西有二波斯國一北
有二胡國一其天竺ニ有二東西南北中央五天竺一而有二十六大國一云云
論家とハ論を造る家にして龍樹天親の二菩薩をさして言
なり　中夏日域ハ高僧とハ中夏ハ唐土の事なり夏を大なり
と言て天竺と日本の中央にある大國なる故ニ唐土を中夏と
ふ則曇鸞道綽善導の三祖出現の國なり　日域ハ日本乃
事にして日の出る方乃字ともいつり域　ところともよむひと
も訓ず源信源空の二祖出現の國なり　三國合して七高祖あ

釋尊楞伽山ニ於て大衆を集て說法之圖

是によりて中夏日域の高祖といふ顕大聖興世正意と大聖ハ釈尊の事なり大ハ聖と釈尊をこの大聖の釈尊世に興出ひ説給ふ本懐の心なり佛意と高祖とをの〳〵世に顕ハるゝといふ事なり明如来の本誓応機とハ如来の本誓機に応ぜることを明らかにいふ事なり如来の本誓ハ阿弥陀佛の本願の事なり機に応ぜるとハ応ハ願なり機とハ微なりといひて外ハ見へ隠居るものゝ内ハ是を可發の義とひて縁に応じ機に感ずるの也縁ハ法座の中へ施主ありて酒を出して事にのぞんで感ずる人ハよく紀拍して出されと機を発せるなり機に感ぜぬ人ハあしき拍して出されと思ひ凡夫未下戸の事なるべし嗔ひ人の飲ともうるさてゞるものの也是を上戸乃酒をきよう見るとゝ紀へ安宿善の機に

いろりてハ力に地よりぶぐと懈むべしされば酒を出さぬ前ハ下戸も上戸も分ちハなれど何ぞなく法座に詰てゐるべし思ひげなく酒出て機に応ぜるとき感ぜざるものの差別なきなるなり

雖行自力の法門なるときハ我〳〵の機に応ぜぬ故に下戸に酒を勧むる如しなるに如来本誓の不思議として行せず除せず凡まのまゝふて佛果涅槃に到らしめ給ふ法門なりと勧ぬへハ上戸に酒を出しなる如くよき拍しそ出さりと宿善の機ありて他力信心といふ事を直に得てまゝるハ機に感じるといふものなり此義を明じ給へる七高祖の御勧ぞと言ふ御意なりと知るべし

釋迦如來楞伽山　爲衆告命南天竺

龍樹大士出於世　悉能摧破有無見

宣說大乘無上法　證歡喜地生安樂

是より第一祖なる龍樹菩薩の德をあらはしのたまふ尤此六句ハ龍樹の出現より數百年の前釈迦如来滅度世ニ我滅後ニ龍樹といる大菩薩出現して　弥陀の本願を目も信じ他をも教て佛法を弘め念佛を勸めぞと說給へり甚說法ハ楞伽山といふ山ニ於て說給ふ則楞伽經と号て文中ニ見へたり

龍樹菩薩ハ南天竺梵士の裔なり釈尊世を去ること數百年後ニ出現ありて初て生るゝの日樹下ニあり龍宮ニ入てゞめて成道を得るよる故ニ龍樹と号じて統紀ニ見へたり又龍勝と

も号く得法の後南印度ニいる長者の子迦那提婆出世ありて又外道五千余衆有て三宝ニ帰せ是を摧破し大智度論を作是を三論といふ又易行品ニ於て難易判して念佛宗七高僧第一祖と稱ず

楞伽山といふ楞伽といふ城のある山ニて夜叉の住居する所なりと云へり文類聚鈔跡淨記ニ云楞伽ハ城の名山を摩羅耶山と名く僧伽羅國の東南ニ在心玄義ニ云梵ニ楞伽といふハ雖入といふ亦ハ嶮絶と云ふ復可畏と亦莊嚴と云ふ此ハ摩羅耶山ハ南海の中ニ居る孤時ふして其山別成て高く山頂ニ城ありて廻ニ戸扉ありて唯神通ある者空を飛行して下ニ入方ニ其中ニ頂る故ニ名けて此城を雖入と羅刹中ニ居する人復可畏と名く衆寶を校飾ふ人復莊嚴と云ふ云釈迦如来此山ニ於て

説法し給ふ時大慧菩薩といふ知識ありて上首となり雖ども一百の問を立ぬるに釈尊一一これを答へ給ふ其答を審かに記して書とりたるを楞伽経といふ為衆告命南天竺とは衆の為に告命といふ事はして衆は其会座に列なれる人々のことをいふ其人々に対して告ぬるなり南天竺は五天竺の中北南天にて龍樹菩薩出現の地なり龍樹大士出世とは右釈尊告ぬるは南天竺に龍樹大士といふ菩薩世に出ぬ悉能有無の見を摧き破り大乗無上の法を宣説歓喜地を證り安楽に往生せんと也有無の見を摧き破るとは人人は出ぬれば生死相續して常住なりと思ふ有の見なり又人も犬も死されば火乃消るが如く灰となり土となり迷ひも證もなき事なりと思ふ是無の見なり此有無の二見より六十二の邪見を生ずるなり

是皆九十三種世を穢さと有れば道の教なりそれを悉能摧き破りつくして大乗の無上法を弘めぬとなり大乗無上の法とは弥陀弘誓の本願の事にて楞伽経の文にては我家内證智妄覚の境界に非ずとなり我家とは佛自内證の大乗法なり我物我教といふに同じ内證智とは聲聞にても菩薩にても仏より外に知ぬるなき智恵の事を内證智といふ大経に所謂佛智不思議不可称智等の五智の事なり無上とは前にも言ごとく勝れる事を讃る辞なり弘願一条勝れる上も無上法といふことなり宣説とは宣説を歓喜地を證るといふは正定聚の位に住する事なり龍樹和讃に云本師龍樹菩薩は大乗無上の法と記歓喜地を證してひとへに念佛をすすめるとあり有其歓喜地の地は歓喜地は正定聚の位なり身によろこぶを歓とのひ心に

難行陸路苦
易行水道樂

弘法大師の哥ま

十悪も五逆もころび他力舩
自力の陸路苦るり

よろこぶを喜といふ獲へき物を得んと思ひて悦ぶを欣といふと有されば欣ぶ地を離り信心欣ぶの身となりて安樂淨土に往生しめるといふる之真實行信を獲者ハ心多欣喜ゆへに是を欣喜地といふと有

## 顯示難行陸路苦
（アラハシシメシガタキヲコトヒクガチノクルシミヲ）

## 信樂易行水道樂
（セシムヤスキヲコトヒウナヂノ）

是より上ハ龍樹一代の行化の事を釈尊の未来記に説おせられたる楞伽経の文より是より下ハ心〻〻龍樹の釈文の意なり和讃すてハ龍樹大士世に出て難行易行の道をしへ流浪輪廻乃我等をば弘誓の舩に乗ふぬふと有ところ也難行道とハ自力聖道の法門にして行ひ難き道とよめり易行道ハ他力淨土乃法門にして行の易き道と説ものなれ共難へて法の道理を示し

給ふ故に難行陸路の苦易行水道の樂と言陸路とは陸路と訓て已が足にて歩を行ふに目の見へぬるの足こゝぬ者は多くは也聖道の修行は智恵の眼あきらかにして修行の功德を積て利益の足達者なるひとゝ人ども生死の凡夫は智恵の眼閉て修行の足なけ果る者なきゆへ難行道の陸路は苦しき甚しく九山坂の険岨なるは中々尋常の者とて歩むるやむなしと顕し示しめすと顕示難行陸路苦といふなり又水道とは海河を船よて渡るとく如何なる病人足弱なりても何の愁もなく易こと向の岸へ著ぬ安樂なること言なり是行ひ易き道よりて菩眼くらくしてかなるむよ及ばず罪障をなりと嘆ともいふぞ弥陀の本願は船よて樂しみ行ぶこと是を信樂易行水道樂と示しめなり和讃よては生死の苦海ひとりゆく



久しく沉める我等をば弥陀弘誓の船のそなて必ず渡しなるとく和らげて教へる大願の船よ乘じてぞ生死の海よ浮こて有情をよむむて菩提に有も因意なり其両輪を信心愛樂するを信樂易行水道樂と示しめなり給ふなり

## 憶念彌陀佛本願

## 自然卽時入必定

憶念とは二字ともよ思ふと訓て一念発起の信心は臨終まで相續するとく故よ初一念の時より後て相續の事を憶念の心といふなりされば龍樹菩薩の十住毗婆沙論易行品の文よ弥陀仏乃本願を憶念すること是の如し若人我を念じ名を称して自歸すれば卽必定に入こと阿耨多羅三藐三菩提を得るこの故に常に憶念すべしと有て次に人能是佛の恩量功德を念ぜ

きハ即時に必定に入是故に我常に念ずると有自然即時入必定しハ弥陀の本願念仏を憶念とれバ自然に正定聚に入る決定往生の身となるといふ事なり即時とハ直にといふ意にして即刻即座といふに同し必定ハ必定めて往生とるをいふ則ち正定聚に定めて入なり

## 唯能常稱如來號　應報大悲弘誓恩

此二句ハ唯能常に如来の號を稱へて大悲弘誓の恩を報ぜんと訓て易行道の所也へに行といてハ口に稱る称名念仏の外まに何もるなき事を明し其行も自身往生の行と励むとまハあれど一念往生治定の上の仏恩報盡の多念乃称名成義を明して恩を知り徳を報ずるを示し自力回向の定散心を離るを示

しかるに甚をいろは哥まして八恩を知り德を報ずる心ありて自力回向の分紀もなくなれと諭し龍樹の易行品を念我称名とも故我常念とも有て信の一念乃至どころか時をへだてず日を隔てず即時入必定と必定の菩薩と同じく涅槃の分人となりて正定聚の位に定まる上ハ臣下が主君の大恩をうけて常に其恩を忘きぬが如くに大論に言へるよしにて憶念の心常にして佛恩を報ずる思ひあるが應報大悲弘誓恩といへるなり

## 天親菩薩造論說　歸命無碍光如來

## 依修多羅顯眞實　光闡横起大誓願

甚深より下ハ七祖なれ二まして龍樹菩薩と同じく天竺出現の天親菩薩の相承を示さるゝ所なり往生淨土論といひて三部經の意をつゞめて論文を造りて偈に造論說といへり是ハ菩薩を論主とも稱せり其論文の意ハ彌陀の本願を我も信じ人にも教へむるといふ說也初ハ先自の信心をのべて歸命無碍光如來と仰られる也則高僧和讃にてハ天親論主ハ一心に無碍光に歸命したてまつる力に乘ずれバ報土にいたるとのべ有処なり故に天親菩薩論を造て說て尋光如來に歸命せよと示しまゐらせ給ハ南無なり無碍光如來ハ阿彌陀佛なり

陰多羅に依て眞實を顯しとハ陰多羅とハ天竺の語にて線にて花を繫ぐたとへを假て御經の事をいへり花を貫にて繫ぐなり御經の文字言句を長くつなぐて佛意を著て故に陰多羅といへるなり經といへも其事にて經の字ハ機の竪系の事なり

横系ハ皆竪系まてつゝぎたる由なるゆへ横ハ花を注するゝも同じ義也
三部経よりて浄土論を造南無阿弥陀佛のいはれを顕しぬひ
しなよ陀多羅よりて真実を顕さと示しぬふ是を依陀を
羅顕真実とゝ横超の大誓願とハ信の巻の中ゝ横超とハ斯乃
願力回向の信楽是を願作佛心と曰願作佛心ハ即是横の菩提
心なり是を横超金剛心となづく有大誓願ハ願ハ十八願の事を
横超の大誓願とのたまふなり光闡ときるとハ廣く述るとなり
て其中ゝなる事を開き出し
明らかなるなり訓光もなりとく訓なり是ゝよりて光闡
横超大誓願といふ也
天親菩薩ハ北天竺天竺國の人なり梵語ゝハ婆藪槃豆とゝ
舊注ゝハ天親と翻し新注ゝハ世親と譯す大小乘の論合

して千部作ぬ故に千部論主と号ス又往生浄土論を作り専弘む王依の論主なる故に三佛の後に此菩薩に歸し奉と二藏義に見へたりこの菩薩を以て浄土門第二祖と称ス

## 廣由本願力回向　爲度群生彰一心

此二句ハ廣く本願力の回向によりて那生を度せんが為に一心を彰す論文にハ普共諸衆生往生安樂國と云て天親菩薩の一心歸命の安心に煩悩悪業の男女をとも云ひく往生せん と言る処なり御和讃にハ是を論註によりて論主の一心と云ふ本願名号の謂を聞て斯る機の我れ煩悩成就の我等が他力の信とのべ給ふと明しめ給ふ一心と云ふ本願名号の謂を聞て斯る機の我れまでも助ける佛ハ弥陀如来より余に何ぞ疑なく信じて二度うつらずて変ぬが至心信樂欲生の御勸とそ此まに受る一心まで他力回向の一心也へ廣大無辺の一心とも言なり廣大無辺の一心に何ぞや此一心を本願力の回向なりと言ふが天親菩薩なる故に本願力の回向によりて群生を度せんが為に一心を彰すと示しめるなり　群生ハ衆生に同じ度るハ滅度化度なりて衆を救ひ助るを云也

## 歸入功德大寶海　必獲入大會衆數

功德大寶海とハ他力本願の事にして南無阿弥陀佛の功德有ること紀を寶の海にたとへて言なり行者歸命の一心ハ名号乃大宝海中に歸入し正定聚の位となり佛果に迫き身と成なり此佛果に至る に浄土論に果の五門と云ふ則論文に一者近

門二者大會衆門三者宅門四者屋門五者園林遊戯地門と
あり佛果に近き身となるを近門といへり必獲入大會衆數
ハ此近門に入者ハ必ず大會衆門に入ことを獲といふ事也大會
衆の數に入とハ娑婆に居るごゝ極樂の聖衆の數に入といふ事
なり末燈鈔に般舟讃にハ信心の人ハ甚心既に常に淨土に居
ると釋し給へり居ることといふハ信心乃人の心常に淨土に至るといい
ふ意なりと示しまふなり是ハ善導大師の御釋に厭ハ娑
婆永く隔忻ハ淨土に常に居ることある文の意なり

得至蓮華藏世界
卽證真如法性身

蓮華藏世界とハ極樂の異名ホして此世界に至ると六今生の命
終ありて淨土に往生して得ところの證果にて宅門に入となる

ところ也濁に染ぬ蓮の如く正道の大慈悲ハ出世の善根より生
もと有て法藏菩薩無漏清淨の善根より法性真如の全躰を
さとり顕しのひらる功德莊嚴の淨土なるが故に第一義諦妙境界
相なるを蓮華藏世界といふ也至ると得るとハ安養淨土に至ると
を得るり即證真如法性身とハ即真如法性身を證をといふとは
して屋門に入といひく種々の法味の樂をうるところなり和讃
まそハまるいち微身をもてたてく法性常樂證せしむと示させ
る也證の卷にハ即是滅度なり常樂なり畢竟寂滅なり
無上涅槃なり無為法身なり實相なり法性なり真如な
里一如なりと示しのひらく願土にいたれば速に無上涅槃を
證してぞとハ此宅屋二門に入るを示しのひらる讃文なり
現生不退の近門大會衆門より滅度に至し宅門屋門き



での門を入門とのたまはりされバ不生不滅の證を法性真如身と
いふなり不生不滅ハ移ぜ變ぜなり即證ハまるいち證る也

## 遊煩惱林現神通　入生死薗示應化

此二句ハ遊獄地門と言へる門と出門と言へるなり是を入出二門といふなり上
の如く證ひらけて無上涅槃を證して後ハ還相回向として此娑婆
に入りて心のまゝに衆生を濟度し遊び楽むなり遊煩惱林現
神通とハ煩惱の林に遊びて神通を現しといふる事にして八万
四千の煩惱を林にたとへたり林ハ衆の木乃數も限りなきなり
いふ神通ハ四十八願の中に六神通の願ありて三明六通皆具足乃
身となるをいふ其神通を現し衆生を濟度するなり入生死薗
示應化とハ生死の薗に入て應化を示すといふ事ゆへて薗とハ

一休和尚母人の方へ送りあひしに
消息よいろくさとりハいゝぬるの
念佛ハ釈迦弥陀の本懐よに間
今日より念佛三昧よるりぬへし
宗純も今より八一向よ念佛む
りまてい

一休禅師名宗純号狂雲子
後小松帝ノ庶子也文明十
三年化壽八十八

ハ梅桃梨林杏李の類の果の樹をうゑる所をいへり三界二十五有界
此よ死し彼よ生れ悪よ報ひ業よ因花咲實の栄枯浮沈あるゆ
へよ生死の菌と為へいふるり應化ハ應身化身とて身よ應じ
身を化して人天鬼畜よまじりなりと神通をなすハ婆婆
世界の煩悩の林生死の菌よ遊ひ戯きて楽しむを遊戯地とふ
なりされハ我身の證をひろきて衆生涅槃を楽しくこ慰といふり
とも我のこ證よあるぼ六親眷属法界の衆生をも導き救ふ事
皆願力不思議なりと知てうへきぐも佛恩を貴ぶべし恵僧都
の哥よ「我うるも先極楽へ生まるべ知るもあぬも皆むろへん」と詠ひ
しハ此意よて有なり新古今集よ出

本師曇鸞梁天子　常向鸞處菩薩禮
ツネニ　ムカヒテトンランノモトニ　トス

是より以下ハ中夏の高祖とある第三祖曇鸞大師の一段なり
曇鸞ハ支那雁門の人なり出家して内外の經典を學ぶ又人を教
導するまハ壽命短くしてハ成ぐさしとて陶隱居といふ仙術
養生を学ぶ人に從ひ仙經十卷を得て之を学ぶ汾州玄中寺
に住持し一時天竺より來りし流支三藏といふ高僧に謁し
佛法の中なる不老不死の教ありやと尋ねに流支三藏淨土
の觀音量壽經を取出しこれを授く曇鸞音量壽經とのるを
見て音量壽はなる教なれば何の為に仙經を学ぶ歟を悔ひ
に聖道自力の心と倶になぐ其仙經を焚捨て深く淨土他力
の法門に帰し往生論を注して專ら弥陀の本願を弘む念佛門

の高僧第三祖と仰ぎ魏の興和四年六十七歳まして寂す
此の本師とゝゝは本宗の祖師とゝゝふとゝゝ梁天子とゝゝは梁の武帝と
ゝゝ天子の事なり震旦梁の武帝は姓は蕭諱は衍字は叔達
佛法を信じて殺生戒を持ち衣服も生類の毛および玄
練を採ぶず麩餅を製して用て牛羊の牲を代て備ふ道を佛
法のなる位を棄て同泰寺に入自三慧經を講ず曇鸞大師
を厚く礼して肉身の菩薩なりと常に敬礼したまひ給ひしなり
尤天子は梁の國に座して遥に兆ありて魏の國に在て曇
鸞を菩薩と敬ひ常に其方に向ひて礼拝し給へり故に本師
曇鸞は梁の天子常に鸞のいまして変に向ひて菩薩と礼拝
しのみと示しのみなり是を音ずて本師曇鸞梁の天子常向
鸞處菩薩禮と讀り　三藏流支授淨教焚燒仙經歸樂邦

とは三藏は經藏律藏論藏とある中代藏中の經律論を通達し
て翻譯流傳する人を三藏と云なり流支とは菩提流支とて
其三藏の名なり曇鸞はじめは自力修行の人なりしかども
流支三藏に謁して觀無量壽經を得て忽淨土門に飯し更
まて学ひし仙經を焚て樂邦に飯すと示しまふるなり樂は
たのしむ邦はくにと訓て則極樂淨土の事なり　歸とは歸
入するに同じ是を御和讃にては本師曇鸞和尚は菩提流
支のをしへまて仙經をやく燒てこ淨土に深く飯せしめきと有
て天親曇鸞と御相承の間に入本願力を他力と傳へ給へる
も此傳譯の三藏の指南をもちい給へりと見る子細もなり
自餘の淨土宗にては相承の中にも入まとも自他の聖教を
なるを故に書のなきを口傳と相承とする時は惑の基となる故に

今家よりハ師相承よ入ゆえにといへども其恩徳ハ隠しゆえに
傍依の師として其名を出しゆへなり懐感禅師を源信の
和讃よ入て傍依とし給ふよ同じ流支三蔵ハ北天竺の人なり
其よハ菩提流支といへ菩提ハ此よ道と翻し流支ハ此よ希
と翻す元魏の南臺洛下永寧寺よ住して著処の経三十九
部百廿七巻浄土伝来相承の高祖なり

## 天親菩薩論註解

### 往還廻向由他力　報土因果顕誓願　正定之因唯信心

曇鸞大師天親菩薩の浄土論よ註解ありしといふ事なり
註とハ女の義理を明よまる事解ハ女の義理を明らよ解のる



事なり　報土因果顕誓願とハ論註の文よ報土の因報土の果を
弥陀の誓願の力によって所なる旨を弘く顕しの事なり
往還回向とハ往相還相二種の回向なり浄土よ生ずるを往相と
いひ再此界よ来りて衆生を済度するを還相といふ此回向ハ他
力よ由といふ事なり　御和讃よ度衆生心といふとハ弥陀智願の
回向なり回向の信樂なる人ハ大般涅槃をさとるなり報土よ入れ
ハ速よ無上涅槃を證してで則大悲をおこして此娑婆世界回向と名
づけなり往相還相の回向よまうあぬ身なく成ませバ流転輪廻
も際もなく苦海の沈淪いなくせん　無始流転の苦をすてゝ無上涅
槃を期するとて如来二種の回向乃恩徳まことよ謝しがたしとなり
正定之因ハ唯信心なりとハ往生を決定して正定聚不退の位
よ入因ハ唯信心一なりとよ事なり涅槃の真因ハ唯信心なり

曇鸞大師流支三藏にあひて観経を授け仙経を焚捨る圖

又一心ハ則清淨報土の真因也とも言ひ

惑染凡夫信心發（マトヒニソマル ヲコセバ）

證知生死即涅槃（サトリニシル スナハチ ネハンナリト）

必至無量光明土（カナラズイタレバ ニ）

諸有衆生皆普化（モロ〳〵ノ ウムシヤウ ミナ アマネクケス）

惑染の凡夫とは惑ハ煩悩の異名なれとも刹那の凡夫ハ種〻の境界に惑ハされて煩悩をおこすもの惑とは染ハ穢悪汚染とのひて穢き汚る事なり其惑に汚法て心を穢すなり「一切衆生ハ思ひ染す」其色の又赤〻糸に飯るべきなり」と詠るとく多生曠劫の間煩悩悪業の惑に汚き染る凡夫心へ終きとも其煩悩の惑の中に如来の御慈悲によりて清淨真實の信心を發さしめ給ふ是を論中に泥の中より清らなる蓮華の生ずるに喩へ

うり其信心の發るを正覺華の開ともなり斯有ハ生死の迷ひを離きて其まゝ涅槃の證よりすると知へし是を生死即涅槃なりと證知と示しめす

必至無量光明土諸有衆生皆普化と惑染の凡夫も弥陀の悲願に助られ煩悩の中より信樂の心を發し證を開ハ其時より命終ハ必ず無量光明土よりて諸有苦の世界なる衆生を皆普化益し渡すとの事なり無量光明土ハ極樂の別名なり化益渡ハ度ハ助る事をいふなり

道綽決聖道難證　唯明浄土可通入

萬善自力貶勤修　圓滿德號勸專稱

是より七祖第四道綽ハ禪師の章陸なり道綽ハ支那并州汶水縣の人なり姓ハ衛氏　まして薙髮し大涅槃經の深理をさとり是を談ずること二十四遍後ハ曇鸞大師の德を慕ひて浄土の所業を兼觀無量壽經の教旨を講談する事二百遍專念佛を修する事日こゝに七万遍をもつて人を勸めて念佛せしむ常に念佛をするに其員を數るに小豆を以て絶る積つて百斛に及ぶといへり七十歳にして齒をくゝ落後又元の如く生ひ貞觀二年四月八日寂して壽齡八十歳時に曇鸞七宝の船に乘じて出現しこれを迎へ或云貞觀十九年四月二十七日寂して又二十四日にも云浄土門第四の高僧と稱して常に所謂聖道門浄土門といふ事ハ此高僧の決しそめ給ふ禪師たゞめ曇鸞大師の教をつたへて觀經を講釈しの事二百遍安樂集とかの聖教をのこしハ給ひ其中に

今末代の衆生ハ釈尊の御在世を去て久遠みてたゝ聖道の修行をするも一人も證得る者さゝ有べからず唯浄土他力の一門のミ善悪男女をしるゝ通入ちべき成佛の道なりと宣め浄土門ハ入しめの為ハ道俗聖道の證難を決して唯浄土の通入ちべきを明ちく示し給へ聖道とハ大聖とて佛のてより道ハ因道とて佛果ハ進ちて果道といふ事なり出家發心も家を捨欲を棄るも布施をするも戒を持も悉く一代經中ハ說給へる佛法ハみな佛果菩提ハちみ果る因道也ハ是を聖道門といふなり可通入とハ通路のできる事なり聖道門ハ今既ハ正法像法の時代をりて末法の時節なるまゝ證を得るて難く通路ふさがりて入がゝ然るハ浄土門ハ末法万年の末迄も又起悪造罪の凡夫なりても差つゝへなく通入可弥陀願力の法門なると

河内國若江郡八尾末村ハ末綿屋何某の娘ハ霜と云るあり寛延三年ハ月八日しゝ弥陀の本願を願して信心なるて老たるも及バざるを嘆て此年十月中旬大地震ありてあり父母及ひ下女下男ミな門ハよりて出しゝ娘者ひとり内ハ入りて佛檀ハ燈明をさゝげて念仏をとなへ地震ちづまりて此様を見て汝ハ西ハ去り出さるやと問ハ娘いふ宗業なるゝ地震まて死せんも斗ゝ死ぬべきなゝバ仏者まて称名をとなへ終るんとおもふ那ハせゝ実ハいさゝ様ハ心ぢくるり当平生の心得感ぜるハ余あるて云ゝ〳〳ハ如好人伝ハ見へゝ

と明し給へるを唯明浄土可通入と志めしめ給へる則唯浄土は通ひ入べきことを明さく讃るり御和讃まて八本師道綽禪師八聖道万行さへとなて唯有浄土一門と通入すべき道と說とかる辺なり

万善自力貶勤修と八萬の善根萬の修行とるとも自力まて八證ずべき事と諭しめるが安樂集の文意ふして自力修行乃勤を貶めるへしと事なり圓満德號勸專稱と八圓満德行八萬行圓備の嘉號しいと事なりと有て南無阿弥陀佛の名号の中ま八萬善萬行八悉く備り有ものと信ずれば身は満るの宝号なり圓八まどろしく劫満八ろると劫里南無阿弥陀佛乃德ある名号八万善万行其中ま一圓ま満るとなり故ま自力修行をやめて他力の浄土門ま帰せよと專称名と勧たまへと勸專称と音まて讃まてなり御和讃まて八一形悪を造

も專精ま心をかけしめて常ま念佛せしむまバ諸障自然まのぞこりぬと有辺まて安樂集まて八一部の始終とぐく此義を示しめる也自然とハ他力のことみて毫始ん求つくりと造る罪障を自力の不思議として消滅し給るとの事と諸障自然まのぞこりぬと仰られる也

正信偈和讃圖會卷之中終